

町 政 執 行 方 針

置戸町長 深 川 正 美

本日ここに第6回町議会定例会の開会にあたり、私の町政に対する所信を申し上げ、皆様のご理解とご協力をいただきたいと思います。

私は、去る5月24日に行われました町長選挙におきまして、町民の皆さんの温かいご支援をいただき、当選の栄に浴させていただきました。6月10日に就任し、町政をお預かりすることになりましたが、誠に光栄であると同時に、その責任の重大さを痛感している次第であります。

本年は、昭和25年に町制が施行されてから70年という記念すべき年を迎えておりますが、今日の置戸町を築いてこられた多くの先人のご労苦に感謝しながら、町民の皆様とともに幸せを実感できるまちづくりに全力を傾注する所存でございます。

本町の懸案事項につきましては、6月9日に事務引継を行いましたので、これから緊急性の高いものから順次着手していくこと

になりますが、地方自治体を取り巻く環境は依然として厳しく、限られた財源の中での町政運営となります。町職員が一丸となって、課題解決にスピード感を持って取り組んでまいります。

4月から、令和の新時代、新しい「おけと」を創るための指針となる「第6次置戸町総合計画」がスタートし、同時に「まち・ひと・しごと創生総合戦略」と連携した新たなまちづくりが展開されます。

私は、その実現のために、選挙を通じて町民の皆さんに「まちづくりは人づくり」を基本理念として5つの目標を掲げさせていただきました。

私は、この目標に基づき、新しいふるさと置戸を築いてまいりたいと考えております。

1つ目に、「健康で幸せを感じられるまちづくり」ですが、

何よりも生命を守り、一人ひとりが大切にされるまちづくりが重要です。現在、町の高齢化率は44.46%となっており、長く健やかに暮らすことができるまちづくりが大切になります。置戸赤十字病院や歯科診療所などの医療機関に対する支援を行い、

地域福祉センターとの連携強化によって、子どもから高齢者まで安心して暮らせる地域医療の充実を図ってまいります。

また、心身に障がいをお持ちの方でも、将来安心して暮らしていけるように雇用の充実と所得向上を図ってまいります。

少子高齢化が急速に進んでおり、安心して子どもを産み育てていくための環境づくりが必要です。

本年、増改築される認定こども園こどもセンターどんぐりの更なる機能の充実と、保護者の負担軽減を図ってまいります。

また、登録児童が増えている放課後児童クラブは、子どもの居場所づくりの拠点となる児童館を建設するよう検討を進めたいと考えております。

高齢者施設や児童福祉施設において、人材不足が深刻になっているため、保育士等も含めた人材確保に向けた「ふるさと就職奨学金」創設について、検討を進めたいと考えております。

2つ目に、「住んでよかったと思えるまちづくり」ですが、

平成18年4月に廃線となったふるさと銀河線の代替として、唯一の公共交通機関となった北見バスについて、路線維持に向けた対策を進めてまいります。

また、高齢社会の進行により日常生活に必要な交通手段とし

て、地域巡回バスやスクールバスの利便性の向上を図ってまいります。

日常生活や仕事において、今や欠かせないものとなったインターネット等の情報通信技術に対応するため、光通信網の未整備地域への整備を進めてまいります。

美しい街並みや住環境の整備を進めるため、新築や改修に対する各種補助制度の見直しや拡充、公営住宅等の改修、まちなか団地の造成を図ってまいります。

3つ目に、「元気で活力あるまちづくり」ですが、

本町の基幹産業である農業と林業の振興は、元気で活力あるまちの原動力であります。スマート農業の推進や高性能機械導入など、夢や魅力ある産業振興を図り、後継者や担い手の確保につなげていきます。

商工業においても、新規起業者への支援や新たな町内購買促進策の検討を進め、産業の垣根を越えた意見交換の場を設置して振興策を検討してまいります。

地域おこし協力隊を積極的に導入して特産品開発を進め、新たな雇用と交流をつくることや、おけとの良さを情報発信していくことで、移住・定住を促進していきます。

また、オケクラフトの振興も37年目を迎え、おけと森林文化振興協会への支援を通じて、販売と流通の拡大を図るとともに、産業化への施策を進めてまいります。

4つ目に、「子どもたちが大人になっても自慢できるまちづくり」ですが、

未来の置戸町を担う子どもたちに、町の歴史や文化に触れる「ふるさと教育」を推進し、広い視野を持たせるようICTによる学習環境の整備を進めてまいります。

4地区の公民館は、それぞれの住民生活に密着した特色ある生涯学習の提供を行うとともに、図書館は、本の貸出しや情報集積に留まらず、積極的な情報発信や地域課題解決に応える機能を充実させていきます。

道立高校唯一の福祉科設置校である置戸高校の存続に向けた支援、取り組みを進めてまいります。

5つ目に、「自然と調和するまちづくり」ですが、

緑と清流の町として、森林や河川環境の保全に努め、この美しい景観を後世にしっかりと残す取り組みを進めてまいります。

また、全国で想像を絶する自然災害が相次ぎ発生しておりますが、決して他人事ではなく、速やかに対応できる体制づくりが極めて重要であることから、防災計画やハザードマップの見直し、防災備蓄品の充実と公共施設の非常用電源装置の増強、さらに地域や自治会単位での自主防災組織の結成に向けた取り組みを通じて、災害に強いまちづくりを進めてまいります。

日頃から、あらゆる事態に備えて、消防車両や備品の更新、消防団員の確保など消防力強化に努めるとともに、職場や学校、地域における防災学習や訓練を実施してまいります。

全国で人口減少、少子高齢化が進展する中、医療や福祉、教育や公共交通など置戸町だけでは解決できない多くの課題もあります。これらに対して、昨年10月に北見市を中心市として、本町のほか訓子府町・美幌町・津別町の1市4町で北見地域定住自立圏を形成いたしました。圏域総体として様々な分野において相互に役割分担し、連携協力して課題に取り組んでまいります。

本年度の予算につきましては、町長改選期であるため、人件費などの義務的経費、継続的経費や例年実施している各事業に関する経費などについて議決され、執行されているところでありますが、限られた財源の中で、新しい政策の実現に向けた新規事業

については、内容について十分精査したうえで、今後着手してまいりたいと考えております。

なお、世界中の人々の生活スタイルと経済活動を一変させた新型コロナウイルス感染症については、本町においてもあらゆる方面において多大な影響を及ぼしております。

感染予防策に取り組むとともに、町民の皆さんの生活支援や商工業者への収入減少支援策等について、国や道とも連携しながら早急に全力で取り組んでまいります。

以上、町政に臨む所信の一端を申し上げます。町民と行政が一体となって、第6次置戸町総合計画が目指す「笑顔と夢を未来につなぐまち」の実現に向け、真摯に町政に取り組んでまいりますので、町議会議員をはじめ町民の皆さんの深いご理解とご協力をお願い申し上げます。